核兵器のない平和で公正な世界のために
原水爆禁止2018年世界大会in広島

広島と長崎に原爆が投下されてから今年で73年になります。毎年、世界大会へ代表を送り出していますが、今年は水泳サークル城南ドルフィンの本城美羽さん（小学6年生）と西尾和さん（中学1年）、伊藤豪本部事務局兼城南ドルフィンコーチの3人が、広島大会に参加しました。

平和、夢と希望の未来がある世界を
本城美羽（小学6年）

《1日目》広島の原水爆について事前に調べたり、家族と話し合って、原爆が落とされてからの苦しみや「核兵器のない世界」についての取り組みなどを学び、大会に参加しました。

開会式では、難しい世界的な政治などわからないことがたくさんありました。けれど、わざわざ広島まで来てくださった来賓の方々の話を聞くと、戦争がない平和なくらしがどれほど大事なのか改めて学びました。

東京に帰ったら家族と「核兵器のない世界」について話し合いたいと思います。

原爆ドームを見学

《2日目》今日は動く分科会、少年少女のつどいで「似島」に行きました。

戦争によって、この似島に送られてきた人びとが密かに住んでいた跡地を、実際に目で体験してきました。更地になってしまった弾薬庫跡地、見張りとして使われていた歩哨塔など、さまざまな跡地を見てまわりました。この日は快晴で、かなり暑い中、最後に交流会が開かれました。

「言いたくない。言ったらあの苦しみを思い出してしまう」と、大きな被害を受けた広島の被爆者さんたちのビデオレターを見ました。原爆が落ちる直前、原爆が落ちた直後の様子を語られていて、見ているだけで残酷な気分でした。

その後「青い空は」、そして「このしま」をうたいましたが、少し泣きそうになりました。戦争のない平和な世界がどれほど大事なことか、さらにさらに深く学びたいと思います。

《3日目》ホテルで広島原爆についてのテレビを見ました。午前8時ごろの番組は、どれも広島のことについて放送していました。

原爆死没被爆者は現在のところ、31万4118人になってしまったそうです。まだ、遺族の方が見つかっていない遺骨。原爆が落とされたとき、赤と黒の世界になってしまった広島の苦しさがとても残酷でした。

閉会式も無事に終わり、広島平和祈念資料館に向かいました。外国人観光客がおどろくほどいて、この広島の原爆のことについて知ろうと思っている姿にとてもうれしく思いました。

何もかもリアルに再現されていて、病気のこと、原爆が落とされた後の物の変化、その頃の衣服などを見学していると、悲しい気持ちになってしまいました。

3日間を通して私は平和、夢と希望の未来がある世界がいつまでも続いてほしいと思います。

原爆の子の像の前で

戦後73年を迎えた原水爆禁止世界大会に参加して
伊藤　豪

今回の原水爆禁止世界大会は、自身では5回目の参加になりました。城南ドルフィンの代表派遣の2人と行ってきました。子どもたちはとても学ぶ意欲があり、全体会や閉会総会の難しい話を聞き漏らさないよう聞いていました。

2日目の動く分科会、少年少女のつどい「似島フィールドワーク」に参加し、戦前戦中の弾薬庫跡地や原爆投下後の野戦病院の歴史を肌で感じてきました。広島で行われる原水禁には4回目の参加でしたが、近年、核兵器禁止条約が世界で締結されたり、南北首脳会談・米朝首脳会談が開かれた下で、世界情勢が平和に向かう流れの中で開催された原水禁に、新鮮さと世界で核兵器をなくす世論が高まっていることを実感しました。

日本は唯一の被爆国であるにも関わらず、核兵器禁止条約に賛同していないことは由々しき事態であり、世界で核廃絶をすすめる流れに逆行する形をとっていて、一日本人として恥ずかしさがあります。

これからの勉強や生活に活かしていきたいです。

《3日目》今日は最初に閉会式に参加しました。閉会式では開会式の時と同じように、海外から来た人のお話を聞けてよかったです。また最後には「青い空は」という歌も歌いました。昨日、似島でも歌ったので、平和を願うときなどいろいろなところで歌われているし、私も覚えたいと思いました。

閉会式が終わった後は、資料館に行きました。広島に落ちた爆弾の恐さがすごくよくわかりました。展示物の中でとくに8時15分で止まっている時計が印象に残りました。今回は時間がなく行けなかったけど、今度広島に行ったときには爆心地にも行きたいと思いました。

この3日間、暑くて移動などはすごく大変でしたが、いろいろなことを学ぶことができとても充実していて、あっという間に過ぎてしまいました。今回学んだことをこれからに活かしていきたいです。

この経験を忘れずこれからに活かしたい
西尾　和（中学1年）

《1日目》東京から広島に行く新幹線で、原爆のことをクイズ形式で学びました。はじめて知ることがたくさんあったし、小学生の頃、習ったことをしっかり思い出すこともできました。

開会式の前に原爆ドームも見に行きました。ドームのまわりに建物がこわれたものがたくさん落ちていたことが印象に残りました。写真とかではたくさん見たことがあったけど、実際に見ることができていい体験になりました。

開会式には約5000人もの人が集まっていて、さらに海外のいろいろなところから来ていてすごくおどろいたし、これだけ核兵器廃絶を多くの人が願っているんだなということを感じました。

開会式でもいろいろなことを知り、学ぶことができたし、実しくもあり、また世界で同じ思いでいろいろな活動をしている方を目の当たりにして、勇気をもらいました。

今年の原水禁で初めて総がかり行動実行委員会の代表が参加し、安倍首相の平和への逆行行為、安倍政権を打倒するための野党共闘を中心になって進めてきた経緯を熱弁しました。

「これから日本の未来を担う子どもたちに戦争はいらない」を合言葉に、平和な未来をつくる一人の大人として見て見ぬふりをせず、二度と戦争を繰り返させないためにも行動していこう！　と改めて感じた原水禁大会でした。

認知症Q&A　No. 25

回答はグループホーム虹の家みちづか看護師　大澤千恵子さん

Q　「認知症は予防できない」という本を読みました。どう考えて生活すればよいでしょうか？

A　「認知症にはなりたくない」「認知症になったらどうしよう。不安だわ」と思いますよね。85～89歳では4割、90～94歳は6割、95～99歳は8割の人が認知症になると推計されているようです。

100歳以上の長寿者が増える中、また女性の平均寿命は87歳、男性も81歳となった時代、自分も認知症になる確率はかなり高いことがわかると思います。「年をとると認知症になるのは当たり前」ということなのです。

認知症になって良いこともあるかもしれません。

たとえば、長生きして寿命が終わりに近づいてきたとき、「死」が怖くなるものですが、認知症になるとその置かれている状況がわからなくなるので、死への不安も少ないのではないかという意見もあります。

親が認知症になった場合、慌てず、長生きしたから当然と思ってそのことを受け入れる心構えも必要です。

自分のことで言えば、認知症にならないための暮らし方について学習し、実践することは大切です。しかし、長生きすれば認知症になるかもしれないので「なった場合どうしたいのか」を家族や友人、知人と意見交流し、自分の考えをまとめて、記録に残しておくことも大切です。

まだ若くて、しっかりしている内に記録しはじめることが大切ではないでしょうか。

大森東　しあわせ食堂（こども食堂）

日時：**毎月第4金曜日**　17時半～19時
場所：**大甚コーポ**　301号室
（大田病院の向かいの建物です）
参加費　**無料**（保護者同伴）
申込は前日までに生協本部へ電話を　03−3762−0266

いっしょに宿題しませんか？
ゆたか診療所3階「宿題外来」

日時：**毎月第2水曜日**　17時～18時　勉強
18時～19時　食事
場所：**ゆたか診療所3階会議室**
参加費　**無料**
元小学校教諭などが丁寧にお教えします。
勉強を教えられる方募集中です。
詳しくは生協本部横山まで　03−3762−0266